

暫定新政権への信頼感で景気回復の兆し

2014年第4四半期見通し - ハイライト

- 今四半期のタイ経済の成長見通しは、前年同期比で2.0~2.5%、前四半期比で1.0~1.5%
- 2014年第3四半期と比べると、低下傾向にある在庫を除くすべての景況感指数が上昇
- 総合的に見ると、サービスセクターの景況感指数が最も上昇した一方、鉱業セクターが最大の下落幅を記録

今 四半期のタイ経済は、回復を妨げる恐れのある複数の問題が発生しない限り、前年同期比で2.0~2.5%、前四半期比で1.0~1.5%の成長が見込まれています。暫定政府の樹立が具体性を帯びるにつれて政治の安定感が増し、国の構造改革案と2015年度の予算案への信頼度が高まったことが、この前向きな見通しの要因となっています。2014年9月1日には、国政のすべてを司る暫定政権が樹立されました。このタイ新政権は多くの国民に広く歓迎され、政府が武力を行使することなく数々の改革案を実行に移してから、この政権を容認する諸外国の数も大きく増加しました。これによって貿易に対する信頼感と外国投資が大幅に改善しました。さらには、安定した政府が存在することで、政策立案の効率性と景気刺激策の実施が促進されると思われます。刺激策のひとつとして挙げられるのが、雇用増加に向けた歳出拡大です。政府はさらに、農産物価格の下落問題に対処するため、農産物の輸出拡大に向け貿易相手国との交渉を進める意向です。

今年の第2四半期以降に見られる世界経済の回復に支えられて、今年下期に回復の兆しが見られるのは当然であると言えます。回復の道は平坦ではなく、道中にはいくつかの問題もありますが、今年9月までの動向を見れば、タイ経済は今後も回復が続くことが予想されます。

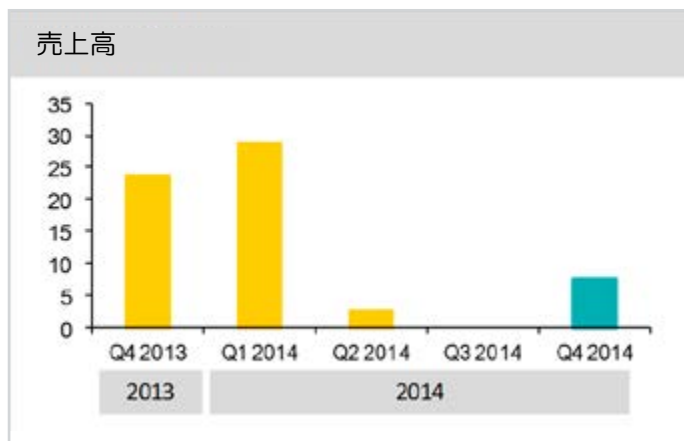
主要貿易相手国に対するタイからの輸出は、第2四半期

に前年同期比で増加を記録しました（米国向けが4.9%増、EU向けが11%増、中東向けが7.2%増）。一方で中国向けは4.2%減、日本向けは6.3%減、ASEAN向けは0.1%減となりましたが、今四半期のタイからの輸出は、世界経済全体の回復に支えられ、前年同期比で5~6%の拡大が期待されています。

潜在的課題

- インフレーション：世界の人口の多くを抱える北半球が冬を迎える第4四半期は、エネルギー関連製品の需要が急増する傾向にあり、原油価格の上昇とそれに伴う生産コストの増加が懸念され、ひいてはインフレ率を押し上げる可能性があります。
- 雇用：タイの国内投資の減少傾向が続いており、それに呼応して雇用も減速しています。失業率はまだそれほど高くはありませんが、対策を講じなければ、需要全体に悪影響を及ぼし、慢性的な雇用問題につながる恐れがあります。
- 農産物価格の下落：タイではいまだ多くの国民が農業に従事しているため、これは非常に重大な問題です。第2四半期の農産物価格指数は12.1%の低下となり、農家の収入は11.5%減少しました。
- 海外での紛争：戦争にまで発展しかねない中東およびウクライナ・ロシア間の対立を筆頭に、海外での紛争は引き続き世界経済に影響を及ぼす大きなリスク要因となっています。さらに、香港における抗議活動の行き着く先がいまだ不透明であり、場合によっては中国と西側諸国との関係に影響を及ぼす可能性があります。

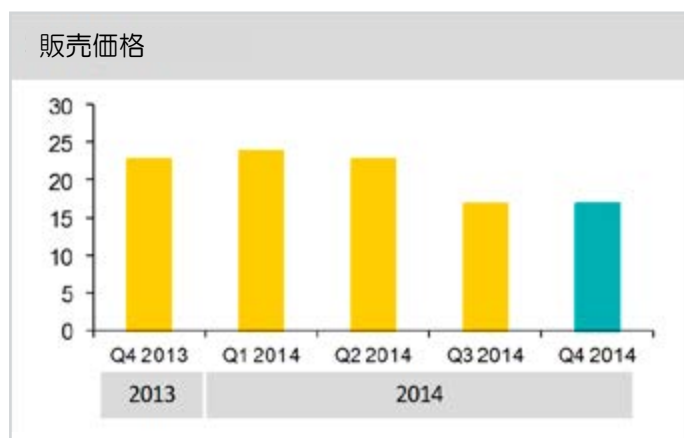
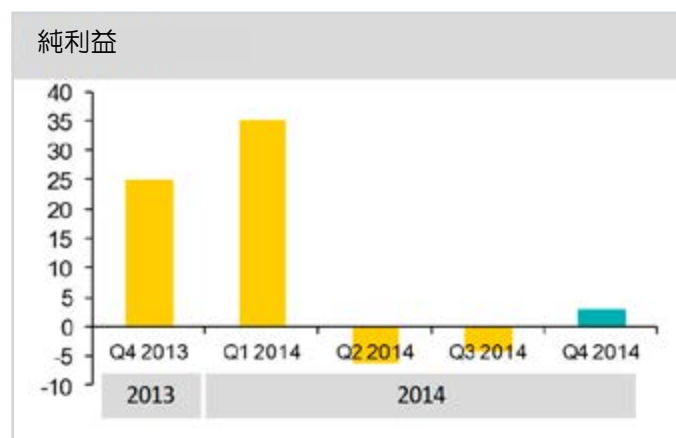
売上高



国の構造改革案への信頼感の高まりによって、売上高の増加を予想する回答者は前四半期比で8ポイント増加しましたが、前年同期比では16ポイント低くなっており、タイ経済がいまだ困難を脱していないことを示唆しています。最も楽観的なのがサービスセクターで、回答者全員が今四半期の売上高の改善を見込んでおり、これに建設セクターの60%と金融セクターの47%が続いています。一方で鉱業と製造の各セクターは前四半期よりもさらに悲観度を強め、鉱業では16%、製造では10%の回答者が売上高の減少を予想しています。

純利益

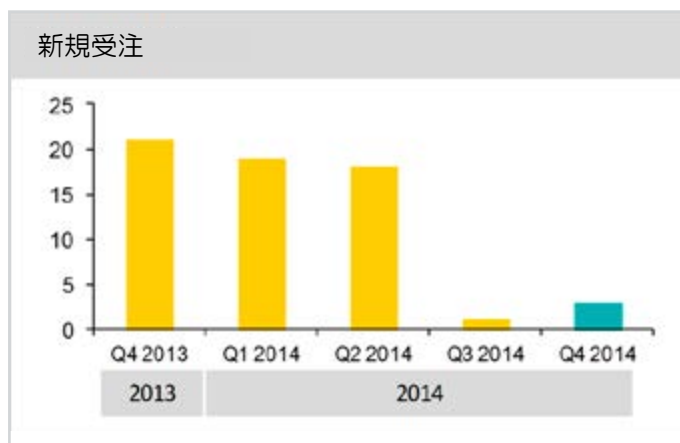
売上高の景況感指数に足並みを合わせ、純利益の景況感指数も前四半期比で7ポイント改善しましたが、前年同期（2013年第4四半期）と比べると、いまだに22ポイント低くなっています。ここでもサービスセクターは非常に楽観論で、回答者全員が今四半期の純利益の増加を予想しています。これに続くのが金融セクターで、61%の回答者が純利益の増加を見込んでいます。売上高の場合と同様に、暫定政府の樹立と2015年度の予算案が次第に明らかになることによって、これらのセクターでは楽観論も新たになりました。これとは際立って対照的なのが、鉱業セクターと農業・漁業セクターで、前四半期比で純利益の増加を見込んでいる回答者は、それぞれ23%と21%にまで落ち込みました。



販売価格

販売価格の景況感指数は、前四半期比で横ばいの17%となりましたが、前年同期（2013年第4四半期）と比べると6ポイント低下しています。全体としては、54%の回答者が今四半期の販売価格の据え置きを予想しています。売上高および純利益と同様、サービスセクターの回答者が最も楽観的で、58%が販売価格の引き上げを見込んでおり、不動産セクターの39%がこれに続きます。対照的に、最も悲観的なのが鉱業セクターで、これに金融セクターが続きます。両セクターとも、前四半期と比べて販売価格の下落を予想しています。それでも、両セクターの76%の回答者は、販売価格に変化はないと回答しています。

新規受注



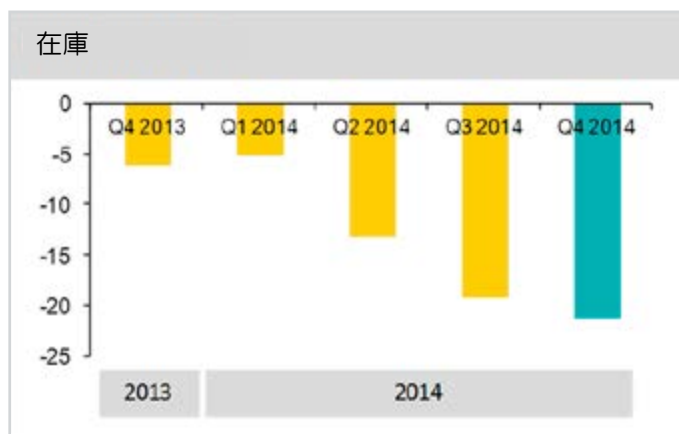
新規受注

新規受注の景況感指数は、全体として前四半期比で2ポイント上向きましたが、前年同期（2013年第4四半期）と比べると、いまだに18ポイント低くなっています。新規受注について増加、減少、変化なしの各回答数はほぼ同数で、増加に若干偏っている程度です。サービスセクターは非常に楽観的で、回答者全員が新規受注の増加を見込んでおり、これに建設セクターの60%が続きます。一方で、鉱業セクターの悲観的な見通しは新規受注にも反映されており、前四半期比で景況感指数は-8%から-31%に低下、これに続く製造セクターは0%から-17%に低下しました。

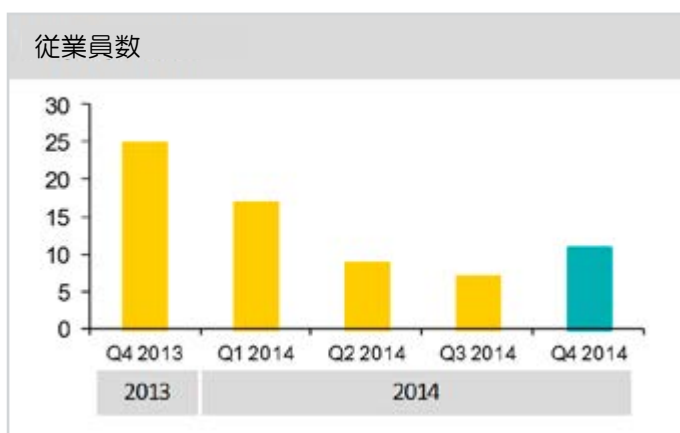
在庫

今四半期の在庫の景況感指数は前四半期比でさらに2ポイント減の-21%にまで低下し、前年同期（2013年第4四半期）と比べると15ポイント減と大きく下落しています。6つの景況感指数の中で、唯一低下を記録した指数となりました。指数の低下が最も大きいのは卸売および小売セクターで-40%、これに農業および漁業セクターの-34%が続きます。これと反対の傾向にあるのが鉱業セクターで、売上と新規受注の不振から、回答者の15%が今四半期の在庫の増加を予想しています。

在庫



従業員数



従業員数

売上高と新規受注が上向いていることから、従業員数の景況感指数にも改善が見られました。前四半期の7%と比べると、今四半期は若干4ポイントの改善が見られますが、25%を記録した前年同期（2013年第4四半期）と比べると、まだ開きがあります。最も楽観的なのが、建設セクターの40%と公益セクターの33%で、将来的な景気改善見通しに支えられたものと考えられます。対照的に輸送セクターでは、60%の回答者は変化なしと回答しているものの、従業員数の減少が予想される一方で、サービスセクターでは91%という圧倒的な数の回答者が、従業員数は現在と変わらないと予想しています。

景況感指数 (BOI) レポート

D&B景況感指数レポートは、ビジネス界が景気に対して抱く印象を測定したもので、投資家にとって信頼できるベンチマークになる商品として評価されています。D&B景況感指数は、四半期毎の景況感調査に基づいて出されます。長年のうちに、この四半期毎の調査は、対象各国の経済活動のターニングポイントを示す有数の指標になってきました。

調査方法

本調査の実施において、サンプルは農業、建設、電気、金融、製造、鉱業、サービス、輸送、卸売などの業種により構成されたD&Bデータベースから無作為に抽出しています。

本調査回答者全員に、所属企業が売上高、純利益、販売価格、新規受注、在庫、従業員数という重要指標に関して、次の四半期は前年同期比で増加するか、減少するか、変わらないか見通しを示していただくという6つの標準的質問にご回答いただきました。各要素の指数については、増加すると予測した回答者のパーセンテージから、減少すると予測した回答者のパーセンテージを差し引いて計算しました。特に明記しない限り、各指数の増減は前四半期からの増減を指しています。

解説および分析：

パンナリ・サングヴィチェン助教授、チャルーンサック・サングチャツワン博士、ソムヌク・アサドーンヴィセト氏、
サリヤ・ヌチャノング氏、バンジェルツァク・サンハプクディー氏



ダンアンドブラッドストリート® (D&B) について

ダン・アンド・ブラッドストリート (NYSE:DNB) は、商業情報およびビジネスインサイトを提供する世界有数の情報提供企業であり、172年にわたって企業の「Decide with Confidence® (確信のある意思決定)」を支援してきました。D&Bのグローバル商業データベースには、2億2,500万件以上のビジネスデータが記録されており、お客さまに質の高いビジネス情報を提供するD&B独自のDUNSRight®品質保証プロセスが、このデータベースを強化しています。この質の高い情報は、お客さまが重要なビジネス決定を行う上で信頼を寄せている当社のグローバルソリューションの基礎となっています。